

第5B(中)分科会 教職員の専門性に関する課題

提案主題 「教職員の協働体制の構築」に向けた教頭の役割
協議の柱 教職員の協働体制を構築するための方策と教頭の役割はどうあればよいか。

提言者 別府市立浜脇中学校 古田展久

1 質 疑

- (1) 重点目標と自己目標の連動について、自己目標のレベルをもっと上げてもらいたいときには、どうしているのか。また、連動の確認について、分掌の長はどうかかわっているのか、教頭は評価者としてどうアドバイスをしているのか。
 - ・レベルについては、校長が指導をしている。学年目標や分掌目標と自己目標の連動については教頭が確認し、アドバイスをを行った。分掌の長が確認し、それから教頭が助言する体制をつくりたい。
- (2) 夏季休業中に各層の目標と取組を改善させるとあるが、進捗状況はどうか。
 - ・学習部と生活部の2分掌部会より報告が上がってきているので、これから確認・指導を行っていく。

2 協 議

- (1) 重点目標と分掌目標および自己目標の連動性について
 - ・ミドルリーダーの面談を先に行い指導する。その後、学年主任等のミドルリーダーにも面談に関わらせることで、目標の連動性や目標達成に向けての検証・改善が担保できるようにする。
 - ・重点目標および分掌目標の連動性を確保しながら、それぞれの職員の良さがあらわれる目標管理シートを作成させる。
 - ・児童、生徒の姿に成果が反映されると職員のモチベーションも上がり、目標管理シートについての理解が深まる。
- (2) 協働体制の構築について
 - ・運営委員会とは別にリーダー会（管理職と教務主任）を組織し、運営委員会の前段階の話し合いを持つことで、指導の充実を図る。
 - ・全職員の目標管理シートを一覧にして、お互いに見あいながら、目標達成に向けて確認しよう。

3 指導助言

職員1人ひとりが学校経営の一員として自覚するために、職員のやる気のある発言や考えをミドルリーダーが拾い上げ、ボトムアップする必要がある。

ミドルリーダーも大きな役割を担っているという意識を持つことが大切である。ミドルリーダーがやらされ感を持つことがないように、また管理職はミドルリーダーに任せきりになることがないように、常に耳を傾けることとアドバイスをすることを忘れてはいけない。

協働体制をつくるには、普段の職場での人間関係づくりが重要である。石垣のような組織づくりができるとうい。それとあわせて管理職は、従来踏襲にならないように、常に軌道修正を持ちかけることで、組織の活性化を図ることが大切である。